令和5年度　学 校 評 価 報 告 書（島根県立隠岐水産高等学校）

校訓	1. 真理と正義を愛せよ 2. 勤労と責任を重んぜよ 3. 心身ともに、たくましく鍛えよ

教育目標	1. 水産・海洋教育をとおして、豊かな人間性と人格の形成を図り、地域社会に貢献できる人材を育成する。 2. 水産・海洋関連産業に関する、専門的知識と技術を身につけた人材を育成する。 3. 心身ともにたくましく鍛える教育活動を実践し、勤労意欲、責任感、正義感の旺盛な人材を育成する。

目指す学校像	県内（隠岐島内）の生徒を大切にしつつ、 全国から生徒を受け入れ切磋琢磨する全国区の高等学校へ！

	評価計画				自己評価				外部評価	
	重点努力目標		目的達成のための方策	各部分掌	取り組みと達成状況	評価達成度	改　善　策	評価達成度	提言・コメント
1	生徒が自ら意欲的に取り組む学校生活の展開	① 学びへ誘う授業を実践し、基礎学力の定着と学力の向上を図る ② 基礎・基本を重視した授業・実習の充実に努め、幅広い専門知識の定着を図る ③ 複数の資格取得や上級海技士資格取得を目指す	各学年の早い段階で、学習態度の改善についての申し合わせ事項の周知徹底をはかり、望ましい学習環境の維持に努める。	教務部	1年生に対して、学年集会等で学習態度の重要性について話をしたが、全体に浸透させることができなかった。	B	学習意欲が低い生徒に対して、教科担当教員、担任と連携して、早い段階から個別指導等を行う。	A	・保護者の評価で、「隠岐水に入学させて良かった」の評価が高評価であることは、指導が十分になされている。
			教科横断的な取り組みやICT機器を活用した効果的な授業が実践できるよう時間割、教室の割り当てなどをサポートする。		授業見学や研究授業を通してICT機器の活用法について学ぶ機会を作った。少しずつではあるが、ICT機器の活用が広がりつつある。		校内研修の機会を増やしたり、研究授業や授業見学への参加者が増加するような手立てを検討する。		
			館内の環境整備に努め、他の図書館との連携を図りながら充実した資料提供を行う。	図書部	コロナ、インフルエンザ等の感染症対策に努め、ソーシャルディスタンスが守られる距離の席配置を維持している。	B	その時々に求められる形に対応できるよう図書館の環境を整える。		・いろいろ地域との連携をしていると思うが、評価としては、もう少し高くても良いと思う。
			広報活動を活発に行い、生徒・教職員への学習情報センター機能周知と利用促進を働きかける。		定期的に図書館便りを発行し、図書館の利用促進や使用状況の周知を行った。		図書館便り以外にも、能動的に図書館の利用を呼び掛けていく。		
			関係分掌と連携し、視聴覚関係機器やICT機器・教材の準備・提供に努める。		ICT機器、機材の提供を行った。		各分掌と連携を密にして、スムーズな提供を行う。		・課題研究の発表は良かった。ナマコの研究など地域の課題に直結している。
			生徒の興味や関心を高めるICT教材作りの支援を行う。		国語科に限らず、授業の中で図書館を活用してもらった。また、ICT教材の資料として図書館の蔵書・資料を提供した。		今年度提供した蔵書、資料を基に作成されたICT教材の共有を行う。年度を越えてブラッシュアップができるような体制を作る。		
			上級海技士資格や関連資格の取得へ向けた取り組みを強化する	海洋テクノコース	専門教科の学習内容の定着にあるとともに資格取得希望者を対象とした補習等を実施し、4級海技士（航海）に5名が合格した。	A	今後、資格取得に関して自ら課題に取り組もうとする態度を養い、海技士受験者数及び合格者数の増加を目指す。		・課題研究の発表は良かった。ナマコの研究など地域の課題に直結している。
			指導方法の工夫に努め、わかりやすい授業実習を展開する		授業改善に取り組むとともに、互見授業を実施し、指導方法の工夫に努めた。		教科担任間の連携をさらに強化し、生徒の状況把握、教材研究に努める。		
			安全を最優先した実習を実践する		安全を念頭に行い、事故等もなかった。		引き続き、安全を最優先させた実習を行う。		・課題研究は短期では結果は出ない。継続することでより研究が深まる。
			コース内での情報共有を密にし、組織的な学習指導を行う。	エンジニアコース	定期的なコース会の実施により、組織的な指導をスムーズに行うことができた。	A	コース内での団結力をより強化し、より組織的な指導を行う。		
			地域のニーズに対応しつつ、生徒・職員数にあった実習計画を立ててそれに沿った実習を行う。 衛生面の指導の教科・徹底を図ることで、生徒の意識を向上させる実習の様子の記録を撮り、反省や次の計画に役立てる	食品生産コース	今年度も地元産のバイ貝の味付け缶詰、地元産のトビウオを原料としたアゴだし、ワカメの塩蔵、神海丸のマグロの缶詰が計画通り実施できた。衛生面は徹底できた。	A	地元産の原料が続く限り計画的に実習を行い、新たな地元産の原料があれば取り入れていきたい。		
			資格取得の目的を伝え、生徒の個性に合わせた指導方法を工夫する。	資源生産コース	例年よりやや点数は低かったが、1級、2級とも栽培漁業技術検定を全員合格させることができた。	A	生徒の多様化が進んでいるため、個別指導等、一人一人に合わせた指導を工夫する。		
			教員間の情報を密にし、生徒個々の能力・特性し適切な指導を行う。	専攻科	教職員・非常勤講師との情報を密にしたことで、幅広い専門知識を定着させることができた。	A	乗船実習中の海技士対策について、指導教官との連携した指導を継続する。		
2	社会人として必要な資質の育成と基本的生活習慣の確立	① 自己有用感・自己肯定感・自己指導能力を育成し、基本的生活習慣の定着を図る ② 生徒一人ひとりの個性や適性・能力の多面的理解に努め、計画的かつ組織的な生徒指導・寄宿舎指導を実践する ③ 部活動・生徒会活動を活性化し、規律正しい高校生活を目指す	きめ細やかな指導を学校の様々な場面で行い、全教職員との連携を図る。また立哨指導の充実にも取り組む。	生徒指導部	多数の週番教職員の立哨指導により生徒へ細かな声かけができた。	A	より効果的な指導を行うため、週番教職員との立哨指導を継続する。	B	・インターンシップの期間は1週間程度であるが、もう少し長い期間でも良いのではないか。
			定期的なアンケート調査で情報収集・早期発見に努め、関係部署・委員会との連携を密にし情報把握を行う。		担任との情報共有により早期的な対応を行うことができた。		用紙による調査から教科パソコンによる調査方法に変更し効率的な情報収集に努める。		
			生徒主体で各行事等が活性化できるよう、生徒自身が個々の担当を意識して行動できるよう適切な指導を行う。また各行事における委員会活動の活性化に取り組む。		生徒自身が個々の担当に責任を持って取り組むことができた。		教員間での連携を図り、より活性化できるように努める。		・地域に出て学ぶ場があれば、町の担い手として、社会人として成長させることができる。
			保健室に来室する生徒だけでなく、「保健だより」を積極的に発行し、生徒が安全安心な学校生活ができるようサポートする。	保健部	1学期は健康診断の結果別におたよりを発行するなど季節の行事や各学年の学活に合わせた内容にし、思春期、青年期に必要な保健情報が届けられるよう配慮した。また昇降口に保健ポスターを貼り、情報提供に努めた。ポスターについては生徒から話題に上がることもあった。	A	学校保健計画に沿ったLHRを計画的に実施し、保健教育が適切に推進されるよう努める。		・多様性の時代となり企業によっては服装の決まりを見直していく傾向にある。
			健康観察、健康診断、健康相談を充実させ、保健室来室状況と併せて生徒の状況把握に役立て、関係者への情報提供、連携に努める。		生徒の健康相談または生徒の健康状態の日常的な観察により、生徒の心身の状況を把握し、生徒本人や担任、保護者に対して必要な助言を行った。		健康相談の実施について、さらに周知を図り、生徒や保護者が相談しやすい環境を整える。		
			自己肯定感を育成し、基本的生活習慣の定着を図る（相応しい行動、挨拶・頭髪服装・態度・整理整頓など）。	舎務部	生活の場である部屋の整理整頓ができない生徒も未だにいるので、継続した指導を続けていきたい。	B	今後も継続して基本的生活習慣の定着を促し、お互いが気持ちよく生活できる場づくりを構築していきたい。		・多様性の時代となり企業によっては服装の決まりを見直していく傾向にある。
			他との関わり方や社会人で求められる規範意識の育成を行う。		身勝手な行動をとる生徒も少なくなってきているが、ルールについての周知の方法などを考えていきたい。		寮でのルールを全体周知すべく、現在冊子を作成中である。		
			乗船実習や座学をとおし、船舶職員に求められる実務と精神を育成する。	専攻科	神海丸乗船実習をとおし、船舶職員に必要な資質と精神を育成することができた。	B	指導教官との情報共有をより密とし、指導体制の強化に努める。		・隠岐水たよりを島内に広く発信してもらいたい。特に中学生とその保護者に見てもらいたい。
			(1)各教科担当との情報共有を行い、始業時間の遵守、授業への姿勢の改善に取り組む。	1年学年部	取り組みが難しい生徒に対して、授業含めた学習状況の改善の策を講じる。苦手とする生徒が多い普通教科においては普通科会等を実施頂き、学年部も連携して改善を図る。（学年部・教務部・普通科会）　評価者の意見を担任を通じて生徒に伝達した。→目的や目標が定まり、学習についても改善に向け努力する生徒が増えた。	A	各授業担当の先生と情報共有。取組状況を伝えてもらい、担任からも教科指導への働きかけができる環境を形成しておく。		
			(2)定期的に挨拶や頭髪・服装をお互いに確認させて意識付けをする。		始業、終業時間や、号令などもまずは教員が手本となるように注意。　→　継続することで生徒達の意識の高揚を図れた。		生徒への継続的な指導、学年集会等を実施して注意点を確認する。		・隠岐水たよりを年一回だけでなく、学期に1回ぐらい頻数回発行してはどうか。
			(3)端末などの学習コンテンツを用いて、基礎学力の定着、向上に取り組む。		担任・学年部にて、課題の進捗状況の確認や、生徒への声掛けを実施生徒のセーフティーネットを拡げていく。　→　担任同士連携を取り実施できた。		端末の活用にこだわらず、生徒の基礎学力の定着・向上に向かう意識の形成を目指す。課題準備、学習の進捗状況の確認など		・ホームページなどの情報発信は、県外生徒の保護者が生徒の活動を見て安心する。またその感じたことを身近に話し、伝えることで隠岐水の魅力発信につながる。
			(1)体調管理を徹底し、年度皆勤を目指す。	2年学年部	感染症による学級閉鎖等もあったが、出席率から鑑みるにおおむねの生徒が体調管理に努めることができた。	A	体調管理に対する意識は学年部だけでなく学校全体で取り組む必要がある		
			(2)提出物やスケジューリング等を自己管理できるよう指導を行う。		平時はもちろん、特にインターンシップへの指導を通して提出物、スケジューリング等の意識を高める指導ができた。		学年会を開催し、提出物への意識やスケジューリングの重要性など、教員間での意識差の解消に努める。		
			(3)学年集会を毎月実施し、授業規律の確立や周囲を虐った言動(SNS含む)ができるよう指導を行う。		ほぼ毎月学年集会を実施することができた。学年目標の確認や学年部教員からの訓話など、生徒へ言葉かけをする機会としての意義は大きかった。		学年部教員だけでなく、場面や目的に応じて管理職や養護教諭等多くの教員に言葉かけする機会を設ける。		
			生徒指導部、進路指導部、社会科など関係部署と連携して、新成人になるための意識を持つようにする。	3年学年部	消費者講座、生の楽習、薬物乱用防止教室、租税教室、食育講座を実施し、新成人のための意識を持たせることができた。	B	今年度は、3学期に集中してしまっていたため、講座の設定に苦しいところがあった。変更があった時のため余裕のある設定が必要だった。		
3	望ましい勤労観の育成と進路指導の充実	① 生徒一人ひとりの適性・能力に応じたキャリア教育・職業教育を推進する ② 生徒・保護者へ、時宜を得た進路情報を提供し、早期の進路目標実現を図る ③ 水産・海洋関連産業の新規開拓ならびに地元企業との連携により、地場産業への就職を推進する	3年学年部・管理職と密に進路検討会を持ち、計画的で丁寧準を行う。離職率を抑えるための生徒への啓蒙活動をより一層深める。	進路指導部	概ね計画的な実施が出来た。離職率は本年度は例年よりも低く抑えられたと思う。	A	離職に関しては生徒のみならず、保護者への説明、協力を今後仰ぎたい。	B	・情報発信を次の水高生になる人への発信が大切。
			各種模試・進学補習・各学校の情報分析等、効果的な進路指導を行あい、進学保障をはかる。インターンシップの再開。		進学補習など普通科の協力もあり、概ね計画的な実施出が出来た。本年度は進学先が2月の段階で決定できない生徒が出てしまった。インターンシップ事業は3学期2年生全員を対象に実施できた。		進学補習に関してはあり方の検討を要する。生徒各々に対して的確な進学先の選定をしなければならないと感じた。		・卒業生も気にして見ている。便りやホームページによる情報発信は大切。
			特に水産・海洋関連企業、地元企業についてガイダンス、企業見学を適宜（オンライン含む）行い、生徒・保護者へ情報を提供する。海洋生産科に対してのガイダンスも吟味する。本年度より企業・学校訪問を再開する。		5類移行により数年ぶりにほぼ依然と同様のガイダンス等が実施できた。		数年ぶりのインターンシップ事業であったが、感染対策を鑑み、実施時期は変更が必要。（感染により参加できない生徒もいたため）		
			自ら意欲的に寮の運営に関われるように寮役員への助言や丁寧な指導を行う。	舎務部	寮役員を中心に問題点を提起し、時程の変更や食事内容の改善などに取り組むことができた。	A	寮役員を中心とした自治の精神を寮生全体に波及し、お互いが自己成長する場を築き上げたい。		
			あらゆる教育活動を通じて勤労意識の醸成を行う。		寮内、共用部分の掃除を全員でおこなう取り組みなどが、良い影響を与えた。		各掃除場所に応じた掃除手順書を作成し、全員がいつでも取り組めるような体制を構築していきたい。		
			地域の水産業体験や漁業者との交流をはかる	海洋テクノコース	新型コロナウイルス感染症の流向以後初めて、巻き網体験を実施することが出来た。	B	巻き網体験を今後も継続できるよう、検討する。		
			水産・海洋関連産業に興味・関心を植え付ける実習を展開する		コースの特色を踏まえた実習内容を検討し、実施した。		教科横断的な実習を検討し、より魅力的な実習となるよう改善する。		
			進路指導部と連携を密にし、進路課委託・情報収集に努める。	専攻科	進路指導部との詳細な情報共有により、学生自身が希望する進路先に内定することができた。	A	早期に進路希望調査を実施し、進路指導部との情報共有を継持・継続する。		
			(1) 個々の進路希望に合わせた指導を実施する。 ①アンケートや個別面談を通して進路希望状況を把握し、教員間の情報共有を徹底する。	1年学年部	2年次のコース分けについて丁寧に説明をし、基礎学習の重要性を伝え続ける。（学年集会・LHRにて）　→　定期的な学年集会を実施出来た。 保護者への説明会や学級通信などを通して情報を発信し続ける。　→　・両科とも担任同士が、協働し互いの学科のコースの特色や、体験　型の実習を組み込むなど、生徒に対して適切な情報発信が出来た。・コース選択におけるミスマッチなどを減らすことと、進路意識を持たせることで学校生活や学習面の向上にまで繋げられるように努力が必要。	B	早期から進路への意識づけを行うためにホームルーム活動の時間を活用、進路指導部と連携して指導にあたる。適宜面談やアンケートを通して個々の希望を把握。希望を尊重するが、適性の考慮、経済的な自立が可能なのかを考える視点を与える。今後の見通しを立てる力をつけ、ジョブフェアやインターンシップ、総合実習や研修旅行といった機会を上手に活用させたい。		
			②進路希望に沿ったコース選択ができるように、コース実習の内容等を充実させる。						
			(2) 資格取得への意識向上を図る。		危険物取扱者試験を受験する生徒に対して、学習会を設ける。　一新しい出題傾向に対応するために、反省会を実施し、今後の具体的手立てについて検討		来年度も年度当初から取得できる資格と受験時期を周知、定期試験との兼ね合いも考慮しながら取得スケジュールを考える時間を確保。		
			(1)日々の授業や実習、定期的な面談や学年集会を通して、卒業後の進路実現に向けた生徒の主体的な進路活動を促す。	2年学年部	1年次に比べると生徒の主体的な進路活動は増加している。担任による定期的な面談、学年会による集会などが功を奏している。	A	一部の生徒は進路に対する意識が十分でなかった。そのような生徒に対して担任以外の教員からもアプローチをかける。		
			(2)卒業後の進路を見据え、各資格担当者と連携し、試験の案内と指導の充実のもと受験者数及び合格者数の増加を目指す。		資格試験の受験者数に関しては大幅な増加が見込めなかった。合格者数に関しては1年次より増加傾向にある。	B	試験案内の際、資格取得の意義等を具体的に提示して受験者増に努める。		
			日頃より礼儀や挨拶などが自然とできるように指導する。	3年学年部	模擬面接や先生方の常日頃の指導の結果などにより、最上級生としての自覚もできている様子が見られた。企業の方などへも、場に応じた挨拶もできるようになったと思われる。	B	先生方の日頃の挨拶によって挨拶することができていると感じる。このまま継続して全教職員で取り組んでいければと思う。		
4	人権教育、道徳教育、特別支援教育を根底に据えた教育活動の推進	① 校内組織及び支援体制を充実し、研修や啓発など計画的な取り組みを行う ② あら ゆる教育活動をとおし、人権意識を育み、社会性を身につけさせる ③生徒個々の状況把握に努め、保護者や特別支援学校等と連携した取り組みを行う。	担任や教科担当、その他関係部署と連携を密に取り、生徒の情報把握に取り組む。	保健部	スクールカウンセラーと養護教諭、教育相談係、担任等との情報交換を行い、生徒の情報把握に努めた。知り得た情報による指導について、管理職や関係部署と連携して生徒への指導を行うことができた。	A	担任等が一人で抱え込まず、養護教諭をはじめ、関係者、専門的機関と生徒の心身の健康問題について情報の共有化を図り、組織的に対応する雰囲気をつくる。	A	
			スクールカウンセラーや特別支援学校のセンター的機能の効果的な活用に努める。		特別な支援が必要と思われる生徒については「I-RoomOKI」との連携を図るように努めたが、定期的なものとはならず、単発的な活用であった		特別支援学校のセンター的機能について、教職員にさらに周知を図り、効果的な活用に努めたい。		
			人権教育LHR等の計画計画を行い、広く生徒の人権意識を高めるように努める。また、同和問題を自らの問題としてとらえられるように努める	人権・同和教育部	人権教育LHRだけでなく各教科や実習などを通して人権意識が高められた。	A	同和問題を公民の授業で取り扱ったがピンと来ない生徒もいたのでもう少し時間をとって行いたい。		
			人権の素養および道徳的素養を身につけるため日頃の教育活動の他に講演会などを計画・実施する		「視覚障害と盲導犬について」という演題で講師を招いての講演会を行うことができた。		次年度も外部の方に来ていただき講演会を実施したい。		
5	水産・海洋教育を担う学校として、魅力と活力ある学校づくりの推進	① 地域や行政との連携をより一層深め、地域に貢献する積極的な活動を推進する。 ② 魅力ある教育活動を積極的に情報発信し、生徒募集に努める ③ 学校の持つ教育資源を積極的に活用する取組を推進する	学校行事や職員会議の円滑な運営を行うために、状況に応じた学校行事を考え立案する。 改善点は柔軟に対応し、全職員、保護者に周知する。また、反省を行いできることは反映させる。	総務部	コロナウイルス、インフルエンザ感染状況を踏まえた計画や、要望があれば検討し改善できるところはおこなった。行事ごとの反省を行い、次回に生かせるように対応した。	B	学校行事についてアンケートを実施し考えてみたい。しかし、生徒の成長を促す行事や、生徒募集につながる行事等はできるだけ対応していきたいので、協力していただける教職員に丁寧な説明を行いたい。	B	
			学校行事の推進に努め、各行事において、感染症の状況をふまえながらできるかぎり、PTAや地域の方々の積極的な参加ができるように企画し、学校の情報発信に努める。		インフルエンザ、コロナウイルス感染状況を見極めながら、できる限り参加できるように検討したが、参加者や本校生徒の発症状況を見極めながらの参加要請になってしまう。最大限検討はした。		保護者の皆様には、案内を早めに出すようには心がけてはいるが、計画案が出てこない限り案内が出せない。保護者の皆様には、年度初めに行事予定が出るので、参考にしてほしいことをHPで周知する。（行事予定は簡単に変更しない）		
			オープンスクールで隠岐水産高校の情報発信をする。学校案内、隠岐水カレンダー、隠岐水クリアファイルなどでアピールする。隠岐管内の学校に情報発信する。小学校の遠足対応、中学校の学校説明会など要望があれば可能な限り応える。時宜に対応したPTAたよりを発行する。行事写真などの情報収集、管理をし掲示を使う。				学校アピールに関してグッズ、カレンダー等でアピールできたのではないかと考える。情報発信という点でPTAだよりも目標通りに発行したが。ホームページでの発信ができなかった。		
			オンライン説明会や学校見学、体験学習等が円滑に行えるよう関係部署と連絡・調整を行う。	教務部	保育園児や小中学生等を対象とした体験学習等と他の行事が重なることがあったが、概ねオンライン説明会、学校見学等を円滑に実施することができた。	A	体験学習等が他の行事と重ならないよう関係部署との連絡を密にし、日程調整を適切に行う。		
			実習内容を記録し、コース通信等、積極的な情報発信を行う。	海洋テクノコース	実習内容の記録は行ったが、校内掲示、またはHP上に掲載したのみで、コース通信は発行できなかった。	B	HP上での発信に重点を置き、できる限り頻繁に更新するよう努める。		
			企業・施設などと連携した設備製作を行う。	エンジニアコース	地域の課題解決に向けて取り組むことができた。	A	地域との連携を一層深め、魅力ある情報発信に努める。		
			小中学校、養護学校との交流学習や出前授業を行う、実習製品の地域への販売による学校のPRを行う 地域産業界との連携を図る（大学、商工会、業者、漁協等）、実習の原料をなるべく地元のものを使い、地産地消を目指す	食品生産コース	養護学校との交流実習は、コロナ前の形で行うことができた。また、養護まつりで養護学校での缶詰販売も実施した。今年度の地元産原料として、バイ貝、トビウオ、神海丸のマグロ、ワカメを使用した製品を作った。	B	次年度も積極的小・中学校や養護学校と交流していきたい。		
			隠岐の島の特産品となる製品を開発する。本年度は昨年度に引き続き隠岐産イチゴを使ったジャムの試作を行う予定		地元のイチゴジャムを試作したが原料が少なすぎてきなかったので、生産者と来年度も引き続き特産品になるように続けていく予定。		次年度は、イチゴを多く確保し、特産品として販売できる形にしたい。		
			隠岐支庁水産局、役場、地元漁業者、島根大学等と連携し、地域の問題を発見し、解決方法を模索する。	資源生産コース	ワカメの種苗生産、キジハタ・ナマコの中間育成・放流など地域と連携し、問題解決に向けて取り組むことができた。	A	コロナ禍で中断していた島根大学との連携を復活させたり、新たな連携先を開拓する。		
			小学生、園児などの見学や学習活動を通して、資源生産コースの魅力を発信する。		小学生の遠足や見学、中学生の体験学習を通して、資源生産コースの魅力を発信することができた。		体験学習のメニューを増やし、より資源生産コースの魅力を発信できるよう改善する。		
6	学校安全および危機管理		校内安全点検,環境衛生基準検査を確実に実施し、環境改善に努める。	保健部	校内安全点検を学期ごとに実施したが、全てを修繕・環境改善にいたらなかった。	B	環境改善については経費が伴うため、事務部と連携しながら見通しをもって行えるようにしたい。	A	
			清掃、美化活動に生徒が主体的に取り組めるように用具の確認と補充を行う。		担当教職員の指導のおかげで清掃活動に主体的に取り組むことができた。掃除用具等については予算軽減を考えた補充を心がけた。		担当の教職員によって掃除方法がまちまちなので、基本的な掃除方法について示していきたい。		
			保護具の点検・着用を徹底するとともに、使用前の工具類・機械類の安全確認を行う。	エンジニアコース	保護具着用、安全確認を徹底した実習を行うことができた。	A	より安全・安心な実習を行うために不良機器類の購入に努める。		
			来校者や電話での問い合わせには丁寧な対応を心がけ、学校のイメージアップにつなげる。	事務部	来校者、電話での態度や言葉遣いに十分に注意し、不快な思いをさせないよう対応した。	A	今までの対応を継続し、引き続き不快な思いをさせないよう対応する。		
			校舎等で修繕については、迅速な対応を心がける。また、老朽施設の改修は、早期に実現できるよう要望していく。		管理業者と情報を共有し、予算措置から現場での対応は実施出来たと考えている。		管理業者との連携は継続し、教育施設課との情報共有も併せて実施する。		
			消費電力をはじめとする経費の削減は、教職員の協力を得ながら学校全体で取り組んでいく。		今後も教職員等の協力を得て対応していきたい。		教職員等と協議し臨機応変に対応していく。		

【評　価】　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：やや不十分だった　D：全く不十分で達成できなかった　E：わからない（評価できない）